

## 絵画に描かれる交通インフラ

水野高信  
日本工営(株) 顧問

絵を描いたり、美術論をする趣味を持ちあわせていないが、西欧の近代絵画をパソコンやタブレットの画面で流し見ながら想像を巡らすのを、暇の潰し方のひとつとしている。想像は気ままにいろいろなことに及ぶが、絵に描かれている社会インフラはそのひとつ。ダヴィンチによる『モナリザ』の左肩の背景には、氾濫の多いアルノ川上流に架かるアーチ橋が見える。都市国家フィレンツェに仕えていたダヴィンチは、下流の国家ピサを攻略するのに河川を使い、財産を破壊するあらゆる原因の筆頭は河川だが、人間の力で制御できるとも考えていた。画家がそのインフラを描き入れた心理や、時の政治経済や紛争などの背景を想像していくうちに歴史の一面が見えてくる。

19世紀の仏絵画から運河と鉄道にまつわる絵画を拾ってみる。



パリを貫いて流れるセヌ川には、大都市を支える物流のための岸壁があった。モネの絵には、パリ中心部にあるトゥルネル鋼橋のたもとで、仏北部から運ばれた石炭を荷揚げする光景が描かれている。プロイセンに敗戦後数年にして経済を盛り返したパリの活気を表したかったのだろう。仏では地理的条件と中央集権国家体制ゆえだろうか、運河が舟運ネットワークとして他国より発達していた。エジプト通のナポレオンはスエズ運河計画を練ったし、パナマ運河も仏の技術が

活かされたほどだった。

童話『家なき子』の主人公レミがたどった経路は船で大西洋側のボルドーから、チェース描いた右の絵のような長閑なミディ運河（世界遺産）などを通って地中海に出て、さらにアルルあたりからローヌ川を遡り閘門や運河を経てパリも通過して、セヌ川を下り、再び大西洋側の港町ルアーブルに出る。その広域な動きは国土的、土木的スケールですらある。

運河と舟運が発達した分、鉄道や産業革命は英国やプロイセンに比べると数十年の遅れがあった。そのため、1870年の普仏戦争では、鉄道を軍事インフラとして先行整備し、製鉄業のクルップに武器製造までさせたプロイセンに敗退し、



パリまで侵略されてしまう。かつて仏植民地でルイ 14 世に因んで名づけられたルイジアナの広大なミシシッピー川デルタにも、幅広の運河が走り、現在は water highway と称して長大なバージ輸送の物流幹線となっている。

とはいえ仏も 19 世紀半ばから鉄道を相次いで敷設していった。ナポレオン三世の治世下では、パリ知事オスマンに命じて都市大改造が一気に進められ、国際都市化したパリと地方が鉄道で結ばれていった。農工業の進展だけでなく、富裕層は鉄道で地方の保養地に足をのばし、次第に大衆化していった。バカンス好きの仏社会のはじまりだろうか。

鉄道は絵画の潮流にも変化をもたらした。仏革命を経て古典派の肖像画の市場がすでに小さくなった時代でもあった。古典派の重鎮が支配的なアカデミーに反発した若き画家達は、鉄道に乗って郊外のアウトドアに出かけ、輝く空、水、光を風景画に描いた。モネの絵『日の出』は、鉄道が延伸され工業化したルアーブルの港湾を描き、遠くに煙突やクレーンすら遠景に置いた。この絵は単なる印象を描いただけと、印象派と蔑まされ気味に呼ばれるきっかけとなった。



しかし印象派はまたたく間に広く評価され、大衆を魅了していった。



大都市パリでうまくいかず精神異常をきたしたゴッホは、療養のため鉄道に乗ってたびたび南仏のアルルに滞在した。そこで間借りした『黄色い家』の背景には白煙をあげる蒸気機関車が描かれている。パリに戻りたかったのか、はたまた相棒と期待するゴーギャンの到着を待つ気持ちがあらわれたのだろうか。

マネによる『鉄道』では、パリのターミナルのひとつのサンラザール駅を下に見る橋の手すりに佇む母娘の姿に、キラキラした生活レベルの高さと、どこか気だるさを感じさせる。



鉄道が市民生活のスタイルを変えたのは言うまでもないが、絵画文化に変化をもたらしたのも確かなことだ。さて、北陸新幹線や、やがての東海道リニア新幹線は日本の絵画文化をどのように変えていくことになるのだろうか。

(計画・交通研究会 前事務局長)

## WS (ワークショップ) 研修

## ■WS研修：金町駅改良の概略施工計画を開催

- 第3回 課題：「現地調査」と「施工計画のコンセプト」
  - ・大きく2班に分かれて、事前調査資料を参考に駅構内と駅周辺を調査
  - ・各人が全体の施工ステップをイメージしコンセプトを発表
- 第4回 課題：「概略施工計画検討、主に下部工」
  - ・鉄建建設から参加の江原さんより、各種クレーンについてその概要紹介
  - ・既設構造物への対応での違いが印象的
- 第5回 課題：「概略施工計画検討、主に上部工」
  - ・35mの主桁をクレーン架設、線路上空作業の間合いは最短60分だが可能か
  - ・ビュープラザ他既存施設の移設や仮閉鎖が話題に

## VOICE (会員の声)

## 「はっけよい」から地域の元気の源をつくる

白石 浩三 (伊予の富士)

J R東日本 再生可能エネルギー推進プロジェクト

早いもので、平成3年に社会人となって以来3回目の末年を迎えました。学生時代は運動会相撲部に所属しましたが、私の出身大学は、国公立大学大会個人4連覇の播龍灘先輩や東日本体重別軽量級で入賞した駒の富士先輩、全日本体重別軽量級で日本一となった九州の湖先輩ら錚々たる先輩方の活躍により、私が入学する前年に団体戦3部制の最下位であるCクラスで優勝していたので、入学した時は既にBクラスに昇格していました。

結局、卒業までの4年間、一度も団体戦Cクラスに落ちなかったで、入学から卒業までBクラスしか経験したことの無い貴重な部員となりました。Cクラスにわざと？転落すれば、Cクラスでの優勝の美酒は味わえるのにという安易な気持ちが脳裏を過ったこともなかったとは言えませんが、Bクラス常連の東洋大、法政大、大東大、国士舘大、早稲田大らと毎回対戦し、時には、拓大等とも対戦する中、後輩の夜叉龍、水竜、お茶ヶ梅など、しぶとい部員も多く、先輩・後輩諸氏にも恵まれたため、Bクラスから転落することもなく、それもついに叶いませんでした。BクラスはAクラスの日大、日体大、東京農大、明大、近大に準じる高校相撲経験者の集まりであり、まさに当たって砕ける！の試合も多く、人生の儚さを感じたこともありました。



学生時代の弘前・岩木山 合同合宿(前列左端)

しかしながら、私自身、下手の横好きながら運よく国公立大学大会で個人優勝も飾った実績？があったことから、息子がちびっこ相撲を始めたのを契機に、学生時代の友人が副理事

長を務める東京都相撲連盟の理事の一員として、主に高・中・小学生の大会を中心にボランティアとして副審や大会役員のお手伝いをするようになりました。平成24年には東京国体リハ大会である「全国教職員相撲選手権大会」の総務委員(兼抽選委員)として、全国大会レベルの実行役員デビューを果たし、大学相撲部の先輩で公益財団法人日本相撲連盟常務理事の猿ノ川先輩と共に参加したのも不思議な縁でした。スポーツ祭東京2013の本番の東京国体では、公認審判員の資格も取得し、総務委員(兼抽選委員)の他に副審も務めました。会社を休んで、このような貴重な経験ができたのも学生時代の経験のお蔭であり、関係者の皆様には大変感謝しています。



2013 東京国体決勝戦・西方副審を務める筆者  
西方の選手は優勝した中村大輝選手(現大相撲)

JR東日本入社後は、東京駅の改札実習からスタートしましたが、暫くして、山形新幹線の建設工事等の担当で東北工事事務所に配属となった時、偶然、仙台駅の本屋さんで「1992.5月現代」を立ち読みしたら、映画「しこふんじやった」で一躍有名となった周防正行氏が『C級学生相撲の素敵なやつら』という随筆(便宜的に「周防随筆」と呼ぶことにします)を書いていて、その中で私の実名が掲載されていたのには驚きました。



感動の2013 東京国体(東京都大島町) ※国体後、大島は未曾有の災害に見舞われ、写真を撮影した町職員の方は残念ながらお亡くなりになりました。

周防随筆には、『しかしその年、〇大には白石浩三というスターがいた。(中略)実際に大活躍もしてマスコミにも取り上げられた。相撲の良さが無差別級にあるとしたら、その魅力の一つはあらゆるハンディキャップをいかにして乗り越えて勝つかという点にあるのかもしれない。』という記述があり、一体いつの間に取材したのか不思議でした。私は周防監督とは、当時一度も面識はなく、よく取材して、よく脚色したなというのが正直な感想です。さらに、周防随筆には、『実際彼らは全員醜名を持っているのだ。例えば前述の白石クンの醜名は「伊予の富士やる三」。松山西高出身にして千代の富士ファンを思わせる微笑ましい醜名だ。』と記されていました。実は、私の大好きな力士は「北の湖」であり、実際のところ「千代の富士」は好きではなかったのですが、一年先輩の九州の湖さんが北の湖の大ファンであり、四股名も北の湖にちなんでつけていたので、同じだとまずいと思ってやむを得ず千代の富士をアレンジしたというのが本音です。周防監督をいよいよ訴えようかと思いましたが、無駄なのでやめました。

周防随筆には、次のような記載もあります。『しかし〇大相撲部はBクラスだ。なぜだろう。□大の学生に聞いたら「彼らは何でも一途にやるから」と答えが返ってきた。』いい意味?で馬鹿な部員が多かったのは確かでした。今では、新聞記者、弁護士、官僚、大学教授、アナ

ウンサー、医師、ゼネコン技術者、銀行員等多種多彩に各方面で活躍しています。

随筆の最終章には、次の記載があります。『実に相撲を楽しんでいるところが、単なる相撲好きが始めた同好会を母体とする運動部らしい。しかし、そんな彼らにも悩みはあった。Bクラスに上がった瞬間から、それを維持しなければならなくなったということだ。維持しようとするれば自然に稽古は厳しくなる。そうすると部員がどんどん辞めて行く。辞めない程度の厳しさ。楽しんでBクラスを維持することが彼らのテーマとなったのだ。』

これは、小生が主将時代に悩んでいたことです。社会人となった現在、仕事の上においてもボランティアにしても、常に課題はついて回り、そのたびに色々な工夫をすることが大切であり、今から振り返ると学生時代の経験は貴重だったと思います。

おまけですが、周防随筆には、『ユニークなのは練習法だけではない。彼らは「はっけよい」という機関誌を発行し、大会の報告やその相撲の分析、OBの近況報告から相撲論まで、まるで文化部的なノリで相撲を研究しつつ取っているのだ。新入部員勧誘の折には「いま入部された方にはもれなく醜名プレゼント」という特典まで設けて楽しんでいる。』と記述されています。ちなみに、これらの伝統は今でも変わっていません。

現在、偶然にも東北地方を中心とした「再生可能エネルギー」の導入推進の仕事に携わっています。小職の技術者としての経験は、山形、秋田新幹線工事や青森県での分水路トンネル工事が最初でした。東北地方に20年ぶりに戻ってきて、毎週のように東北を訪ねて、青森県八甲田での地熱資源開発調査や八戸でのバイオマス発電、秋田での風力発電プロジェクトを担当しているのも何かの縁です。国立大学法人弘前大学とは、副学長はじめ教授と随分親しくなりました。弘前に出張するたびに、学生時代での弘前合宿を思い出し、東北の地に恩返しをしなければという気持ちが強くなります。また、経産省資エ庁や林野庁、青森県、青森市、秋田県、岩手県、産総研などのお付き合いも飛躍的に拡大しました。

JR東日本における再生可能エネルギーの導入目的は、「環境にやさしいエネルギーの創出(CO2削減)」と「地域貢献(地域の活性化)」です。再生可能エネルギーは、分散型エネルギーであり、雇用創出や地域の産業の活性化につながる施策であり、地域の元気の源をつくるには、打ってつけの施策です。特に、リスクは大きいものの当たれば大きくなる地熱発電は、ある意味、夢がある仕事で、わくわくしてきます。(ハズレも多いですが。)

しかし、その夢を達成するのは、地元温泉事業者や地元自治体との難協議も伴い、粘り強く、辛抱強く、段取りを持って、戦略的に物事を進めて行かなければならず、一筋縄ではありません。約20年前に丸の内北口にあった本社に1年間だけ勤務したことがあります。大先輩から、「協議はSSS(誠意・真実・信頼)を持って為し、UGY(嘘つけ・誤魔化せ・やっちなえ)は決してやってはならない」と教えられたことを今でも守っています。



稽古が終わってみんなで黙想

一方で、仕事の合間をみて、毎週日曜日、ボランティア活動で地域の子供たちに胸を出しています。教え子が全国大会に出場することは、ある意味、夢があり、わくわくしてきます。将来の横綱が出るかも知れません。しかし、子供たちの夢を達成するのは、本人の努力はも

とより、周辺の環境を整えることも大切であり、一筋縄ではありません。

立ち合いに踏み込むには、準備や日々の練習が大切です。万事、「はっけよい」で物事が進められるのは、非常に幸運です。その幸運により、自らも元気になり、地域の関係者の皆さんも元気になればこの上なく幸運です。

忘れがちなのは、家族の信頼です。ここへの配慮不足が一番反省しなければならないことかも知れません。

## たすきリレー

### 仕事を始めたころのアフターファイブの話

白木 博昭

(鉄道・運輸機構 OB)

昭和 45 年 4 月、当時の国鉄中央鉄道学園を卒業し、下関工務局へ配属となって、私の土木屋としての実務経験が始まった。時に 21 歳である。

担当は、山陽新幹線の新関門トンネルと北九州トンネルであり、最初の主な仕事は、工事発注業務に必要な設計図面の作成（正確には手伝い程度かもしれない？）と積算の基礎となる数量計算書の作成であった。日々先輩諸氏の手ほどきを受け、叱咤激励を受けながらの毎日であったと記憶している。

若輩の時代の仕事のことを書くのはおそれ多いので、当時を思い出しながら、その他の失敗談等を書くことにしたい。早 45 年ほど前のことであり、ご無礼はお許しいただきたい。

#### 1 実務 1 年目早々にアフターファイブの仕事として言われたこと

配属された同じ課の担当係の中の一人に、10 年くらい年上の方が居て（当時は働き盛りの 30 歳台前半）、勤務中は普通の人というより仕事もよくできる真面目の部類に入る感じであったが、夕方からの憩いのひと時となるとお酒が大好きで、あっという間に『トラ』になることが多かった。

当時、係長から言われたのが、「酒を飲み始めたら終わるまでしっかりマークしろ」というもので、命令だと思ってこれを忠実に実行した。飲み会が終われば帰路に着くことになるが、『トラ』になっていないようであれば駅でお見送り（片や寮、片や宿舎で、方向も別）、『トラ』になっていれば同じ列車に乗って家まで送ったことも何度となく（国鉄だったので運賃はタダ）。下関から関門トンネルを通過して九州方の宿舎まで乗換や駅からの歩きを含めると 40～50 分くらいかかったようで、折返し帰りの列車が無いことも度々であった。そこで何が起こるかという、やむなくその家にご宿泊となるが、家に入る時には、奥様からは『主人をどうしてここまで飲ませるの。』睨まれてはみたものの、そこは一人身の気楽さと図々しきで、翌日は朝ごはんをご馳走になって、二人でご出勤となる。

約 1 年一緒に仕事をしたが、昼はよく仕事を教えてもらい、夜は夜で、酔っ払ってしまうと、最初の頃は先輩を引きずるように連れて帰っていたものの、段々聞き分けが良くなっていったように記憶している。

## 2 最初の出張で失敗したこと

配属後の間もない頃、先行事例の見学と資料収集ということで先輩諸氏に連れられて関西方面に出張した折り、酒がもとでの大失敗を犯した。

初日が終わり、その日の宿舎で宴会が始まって間もなく、仲の良かった友人から呼び出しの電話が来た。チョットだけ出かけることの許しを得て、大坂の街に繰り出したが、飲みすぎて宿舎に帰れず、仕方なく友人の家に泊まることになった。翌朝、ひどい二日酔いの状態で宿舎に戻ったが、すでにそこは藻抜きの空で、自分の荷物さえ残っていなかった。

頭は真っ白になり、『首になるかも知れない』との思いもよぎったが、何とか次の見学場所に駆けつけ、ひたすら謝った。結果は、『若気の至りということで今回だけは許す。課長にも報告しない。』というもので、助かったと胸を撫で下ろした。その後は、これを肝に銘じ、いくら飲んでも家に帰り着くまではシャンとするよう心掛けた？

## 3 芋焼酎「白波」の話

今でこそ芋焼酎は、全国ブランドを含めて数多くが出回っているが、昭和30年代の終わりか40年代の初めの頃までは、産地である鹿児島や宮崎のエリアで飲まれているだけだったようである。

当時の国鉄では「ヨン・サン・トー」と呼ばれる第三次長期計画とが進捗し、線路増設工事や電化工事が全国で展開されていた。当時、鹿児島地区で工事に従事していた下関工事局の職員は、憩いのひと時を地元の焼酎に親しみ（鹿児島県出身者も多かった？）、転勤で下関に戻る際にこれを持ち込み、よく通っていた一軒の焼鳥屋に置いた。これが本社出張の際の手土産となり、東北新幹線工事に従事するために福島に異動した職員とともに東北地方へ持ち込まれ、全国に展開した。真偽の程は確かでない。

そんな訳で、当時の下関工事局の職員は、『下工が白波を全国ブランドにした。会社から賞状、金一封が出てよさそうなもの』と本気みたいな冗談を言っていた。

## 4 酔っ払った時、若い人に話すこと

最近では周りに若い人も増え、酔っ払っては説教じみたことを言う年になった。以下はそういう時によく話をしていることである。

①我々のやっている仕事にそんなに難しいものは無い。むしろ自分自身が難しくしていることが多いと思え。難しい、大変と思うことは仕方がないが、それで悩む暇があったらまずやってみることが大事だ。協議であれば、まず相手のところへ飛び込む。

②仕事はやらなければ終わらない。どうせやるなら、自ら進んで早くやったら早く楽になる（陰の声：仕事は人に付いて回るもので、忙しい人はどこへ行っても、いつまで経っても忙しい。でも、楽しんだほうがいい。）。

③若い時には、一生懸命使われるように仕事をしたほうが良い。そのうちに立場が変わるとこのことが役に立つ。

④仕事は『思いと覚悟』をもってやると活性化する。言われた仕事を何となくやって、何となく終わるのは面白くない。

（現、JR九州コンサルタンツ(株)）

## NEWS

## ■シビルNPO連携プラットフォーム（CNC P）が会報第13号を発行

◇巻頭言 「この国のかたちを問う」

NPO法人 州都広島を実現する会 事務局長 野村吉春

◇コラム 今求められている「環境防災学」と「風土工学」の両学

——風土に刻された災害の宿命——

風土工学デザイン研究所・環境防災研究所長 竹林征三

◇会員紹介

・NPO法人 建設技術監査センター

・特定非営利活動法人 高知社会地盤システム研究センター

◇部門活動紹介（サービス提供部門）

・社会的経済としてのNPOファンドレイジング

◇会員からの投稿 「最近の小事」

有限会社 仁礼取締役社長 星野隆幸

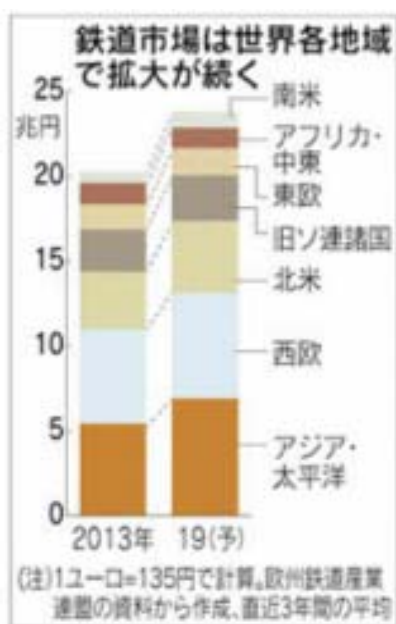
\* 問い合わせや申し込みはNPO連携プラットフォーム事務局まで

E-Mail info@npo-cncp.org ホームページURL: <http://npo-cncp.org/>

## 今月の国際比較データ

## ①「世界の鉄道市場」

出典：日本経済新聞（2015年2月19日 朝刊 1ページ・3ページ）

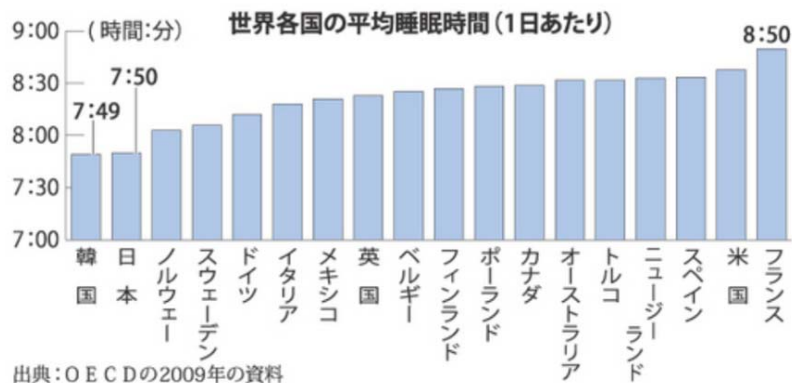




## ② 「眠らない日本人」

出典：毎日新聞（2015年3月13日 配信）

提供者：事務局 土井博己



PF書店

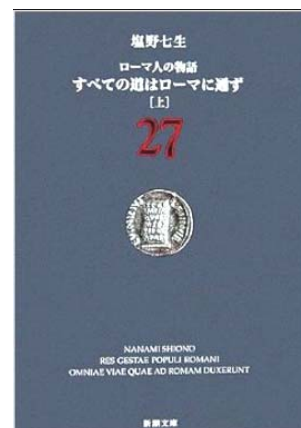
●紹介者 本田 聖一朗（ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)）

「ローマ人の物語」（塩野七生 新潮文庫）

読書好きということで投稿者として推薦して頂きました。数年前に読んで深い感銘を受けた本を紹介させていただきます。

塩野七生の「ローマ人の物語」文庫版全43巻です。文庫化が始まった10年以上前に数冊買っていたものの積読でしたが、読み始めたらローマ人に惚れてしまって、一気に買い揃えて読破してしまいました。それ以降、テレビのドキュメンタリーなどローマ帝国を扱った番組はできるだけチェックするようになりました。

都市国家ローマが建国された紀元前753年からローマ帝国になり、分裂を経て滅亡するまでの約1200年を辿る本です。多神教であったローマ人の特徴は、被征服者の宗教を認め、ガチガチにローマのやり方を押し付けることなく統治する“寛容性”を持っていることでした。このことが一番感銘



を受けた点であり、近代の帝国主義と同じものだったローマ帝国のイメージが180度変わりました。

私たち土木技術者にとってローマ人は祖先ともいえる人々であったと言えます。水道橋やアッピア街道を始めとした道路網を整備したことは有名ですが、未だに現役の水道橋や当時の街道をほぼなぞるように敷設された現代の道路などは技術力の高さの証明ともいえると思います。

基本的に、この「ローマ人の物語」全43巻は時系列に沿って進みますが、27・28巻の『すべての道はローマに通ず』はローマ人のインフラ整備にスポットを当てたもので、ハードだけでなくソフトのインフラについても触れていて、図解や写真をふんだんに使った内容なので、43巻はちょっと…という方でもこの2巻を読むだけでもローマの偉大さの一端を垣間見ることができると思います。

43巻といっても、1冊あたりは200～300頁と決して厚くはないので、まずは第1・2巻「ローマは一日にして成らず」を手にとってみてはいかがでしょうか。

## PF書店

## ●紹介者 玉本学也（鉄道建設・運輸施設整備支援機構）

毎日の通勤時間を読書の時間にあてています。

4月より横浜から大阪の勤務になりました。首都圏に比べれば、混雑とは言えないレベルで、所要時間も短くなり通勤自体は楽になりましたが、読書の時間が短くなり、読書時間が減ってしまったのが残念です。

軽めの本を数冊、印象に残った箇所とともに紹介します。

① この世でいちばん大事な「カネ」の話（西原理恵子 角川文庫）

いままで「カネ」で苦勞した漫画家西原理恵子が、お金を中心とした人生観を綴ったエッセイ。もともとは子供向けに書いた本のようにですが、大人が読んでも読みごたえが十分あり、考えさせられる本です。

“そう考えると、大人って、自分で働いて得た「カネ」で、ひとつひとつ「自由」を買ってるんだと思う。”（P83）

② 工学部ヒラノ教授（今野浩 新潮文庫）

著者が長年の大学教授生活を通じた生き方、考え方を書いた本です。（エッセイに近い）工学部の大学教授がどのようなことを考えて仕事をしているのか理解できて面白い。著者によれば、大学教授はとても大変だけど「工学部平（ヒラ）教授ほど素敵な商売はなかった」と結ばれています。

“壇上に進み出たキョチャン（注：武藤清工学部長のこと）は、「諸君。（理学部ではなく）工学部に良く来てくれた。今日から諸君は僕らの仲間だ。これから訓示を述べるから、よく聞くように。エンジニア



は時間に遅れないこと、以上」と言ったきり、椅子に腰を下ろしてしまった。”(P112)

### ③書き出し小説 (天久 聖一編 新潮社)

「吾輩は猫である」「雪国」をはじめ、有名な書き出しで始まる小説は数多く知られています。この本は「オリジナル小説の書き出しだけを考える」という企画から秀作を集めたものです。一行だけであっても十分に想像が広がるのが素晴らしい。

なお、この企画はデイリーポータルZというサイトで、定期的に行われていますので、興味のある方はそちらもご覧ください。

“メールではじまった恋は最高裁で幕をとじた。”(P27)



## 事務局通信

◇上野駅周辺整備構想WS (第2シリーズ) が終了しました。

- ・浅草通りを中心としたLRTの実現方策
- ・上野駅公園口と公園・道路の一体化方策
- ・駅周辺の街づくりを反映した上野駅整備方策

以上3つのテーマ毎に班を結成し取り組んできました。学識経験者や台東区からのサポートもあり、有意義な提案がまとまりました。現在、事務局で最終のまとめを行っており別の機会に報告します。

◇情報提供及び投稿のお願い

- ・国際比較データを収集しています。何でも結構ですので、目にされましたら事務局までご一報下さい。
- ・「VOICE」「PF書店」「たすきリレー」「写真コーナー」皆さんからの投稿、お待ちしております。

～ ● 今月の写真コーナー ● ～



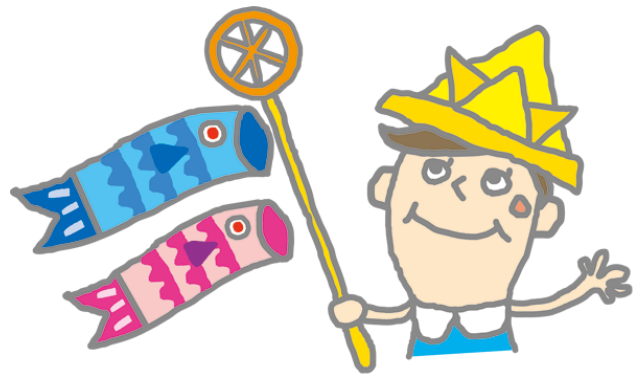
天を向き  
池に映えゆる  
錦鯉（善福寺池）



風吹きて  
泳ぎ愉しむ  
池の鯉（同左）



兜の段飾り  
（石神井公園ふるさと文化館）



（提供：白石 浩三（東日本旅客鉄道株式会社））

プラットフォーム通信では、メンバーの皆様の投稿をお待ちしています。  
連絡先：未来構想 PF 事務局 土井 携帯:090-9150-8613 メール：[info@miraikoso.or.jp](mailto:info@miraikoso.or.jp)  
〒100-6005 東京都千代田区霞が関 3-2-5 霞が関ビル 5F-28